

令和4年度 優良事例

番号	対象者	項目	優良事例の内容
1	工場	名称	定期パトロールの効果的実施
		温室効果ガスの排出削減対策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 週末パトロールを行い、エアコン及び照明の稼働状況、コンプレッサの圧縮空気配管のエア漏れ状況を記録する。 パトロールの結果は社内で情報共有する。
		対策を実施することにより見込まれる効果	<ul style="list-style-type: none"> 継続することにより、省エネが推進される。 エア漏れを早期に発見することができる。
		実施にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> 不必要な稼働やエア漏れ箇所を指摘するだけでなく、前回のパトロール結果から改善された箇所についても評価することで、従業員のモラルダウンを防ぐと良い。 不必要な稼働やエア漏れ箇所を指摘した場合、誰が、いつまでに、どの様に対応するかも合わせて検討すると良い。
2	工場	名称	見える化と実践的なデータ活用
		温室効果ガスの排出削減対策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 分電盤ごとの単位での電力使用量の計測を実施し、二酸化炭素排出量に換算するなどのグラフを作成し、電力使用量の見える化をしている。 過去のデータと比較し、電力消費量が大きい場合はその原因を分析している。
		対策を実施することにより見込まれる効果	<ul style="list-style-type: none"> データを見える化し、過去のデータと比較することで、設備の不具合や故障、不要な長時間稼働や削減可能な待機電力の発見につながる。 分電盤ごとの電気の使用量が把握できるため、温室効果ガス排出削減の取組みによる効果を分電盤ごとに把握することができる。
		実施にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめデータの活用方法を検討し、必要に応じて電力使用量の計測を行い、適切に見える化をすることが必要である。 データ分析の目的に合った見える化が必要である。単純なトレンドグラフ以外にも、複数の指標(生産量、エネルギー消費量、稼働時間、気象条件)を組み合わせることで、有用な知見が得られる場合がある。 例:空調消費電力と外気温度(気象庁データ利用可能)との関係进行分析することで、外気温1℃上昇による空調消費電力の増加分を定量的に評価することができる。
3	工場	名称	温室効果ガス排出削減に向けた組織的取組み
		温室効果ガスの排出削減対策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の長が中心となり、毎月のエネルギー使用量等を取りまとめている。 省エネに関する情報などを朝礼で現場に伝達している。 改善提案制度がある。
		対策を実施することにより見込まれる効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の長が主体的に温室効果ガス排出削減に取り組んでいるため、従業員も取り組みやすい。
		実施にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> 誤った情報に基づいた判断や指示がなされないよう、研修等による教育が必要である。
4	運輸	名称	デジタルタコグラフの活用
		温室効果ガスの排出削減対策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 車両にはGPSやデジタルタコグラフが装備されている。
		対策を実施することにより見込まれる効果	<ul style="list-style-type: none"> デジタルタコグラフのデータからエコドライブの実施状況や燃費の確認ができる。 デジタルタコグラフのデータを分析することで、運行指示の内容(運転時間、休憩時間、積み降ろし時間、客先での待機時間等)が適切であるかを確認することができる。
		実施にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> 特に無し